

パネルディスカッション 1

「知財のチカラ」の活かしかた ～万博に向けて～

モデレーター

富士 春奈

特許庁総務部総務課 大阪・関西万博チーム
副事務局長

パネリスト

加島 広基 氏

阪崎 裕美 氏

日本橋知的財産総合事務所 代表弁理士

世界知的所有権機関 (WIPO) 日本事務所
参事官

富士 春奈



加島 広基



阪崎 裕美

富士:簡単に自己紹介させていただきます。特許庁の万博チームの副事務局長をさせていただきます。本日ですが、『「知財のチカラ」の活かしかた～万博に向けて～』と題しまして、特許庁が現在企画している万博イベントの紹介を私の方から簡単にご紹介をしつつ、日本橋知的財産総合事務所の加島広基先生と、WIPO 日本事務所の阪崎裕美参事官とともに、知財のチカラについてディスカッションしていきたいと思います。

では、私の方から特許庁万博イベントの紹介させていただきます。本日、万博開幕まで50日弱となりました。皆さん、テーマウィークというのをご存知でしょうか。万博期間中に1週間ごとに8つの異なるテーマを設定しまして、期間中は同じテーマを持つ企画を集めて、来場者が地球規模の課題解決を考えるきっかけとなるような取り組みとなっております。私たちの出展は、10月の最後のところで、「いのち輝く未来社会のデザイン」でSDGs+Beyondというところで出展をさせていただきます。

概要の方、簡単にご説明いたしますと、まず10月2日～10日に、EXPO メッセというところで、主催特許庁、共催日本弁理士会、出展は特許庁、日本弁理士会、近畿経済産業局、INPITで行います。もう一つはスタジオですが、世界知的所有権機関(WIPO)

などと連携し、社会課題解決に向けた知財活用の促進などに関する国際フォーラムも開催予定です。オンラインでも配信いたしますので、是非聞いていただければと思います。実はチームメンバーで今週下見に行ってみまして、行ったところはメッセという広い会場のところだったのですが、大屋根リングができておりました。屋根の外側の方を歩いてメッセに行ったのですが、ワクワクしそうなパビリオンなどが徐々に出来上がっているのを見まして、私たちが頑張らなきゃいけないなと決意を新たにしたところでございます。

では続いて、詳細バージョンというところで、国際フォーラムは10月4日になります。先ほども言いましたように、オンライン配信ありということで、第1部、第2部、第3部とございます。このようなプログラムとなっておりますので、是非一部分だけでもオンライン配信で聞いていただけると幸いです。

EXPO メッセの展示になりますが、こちらは、イベントタイトルが「明日を変える知財のチカラ～想いを届ける、世界をよくする～」ということで、特許権などの知財は、自社の事業を守る、という独占権のイメージが強いという方が多いかと思いますが、実は色々なチカラがあり、社会課題解決に役立つことが分かってきた、というところがございます。こ

のような知財のチカラについて、本日いらっしやっている加島先生が携わっている特許庁 I-OPEN プロジェクトの事例や、阪崎さんが関わっていらっしやる WIPO GREEN の事例を元に、知財に縁遠い来場者にも楽しんでいただけるように、分かりやすく知財のチカラというものを万博で発信していきたいと考えているところです。EXPO メッセでの展示の詳細になりますが、3つのパートになりまして、1つ目は知財のチカラを実感しよう、2つ目は特許技術を体験しよう、3つ目がステージイベントに参加しようということです。どんなステージイベントかといいますと、例の方も出しておりますが、まだ決定しているところだけになりますが、10月4日に近畿経済産業局で「知財ビジネスアイデア学生コンテスト」というものの本選をさせていただきます。5日は、INPIT で「多様性がイノベーションを創る！」というテーマで、未来を拓く理系キャリア探究ワークショップを行いたいと思っております。いずれも、知財に縁遠いような若年層向けのステージイベントとなっております。

次に、今日のテーマでもある知財のチカラというところで、今私たちが一番皆さんにお伝えしたい展示パネルの例になります。こちらですが、グローバル知財戦略フォーラム 2023 にも登壇されている川崎和也さんが代表を務める会社の Synflux 株式会社の事例になります。グローバル知財戦略フォーラム 2023 も来られた方はご存知かもしれませんが、洋服の材料となるテキスタイルの廃棄を減らして、アパレル産業を持続可能な産業としていきたいという思いがあったそうです。そのため、洋服の設計図を自動成形するためのデザインシステムを開発し、廃棄量を劇的に減らすことができたとのこと。一般的なパターンの取り方で、型紙通りの洋服を作る時には結構廃棄ができてしまうのですが、この Synflux さんのパターンでいくと、ほとんど廃棄量が出ず、廃棄量を劇的に減らすことができました。これを特許化しているのですが、ここからが川崎さんのすごいとこだなと思っております、この権利を独占的に使うことももちろんできたと思うのですが、川崎さんは他社にライセンスすることで、他の会社さん

にも使ってもらって、テキスタイル廃棄量削減のための仲間を作ったというところがあります。Synflux さんだけでこの取り組みを行っていても、洋服のテキスタイルの廃棄量は削減できるのですが、この権利をライセンスして使ってくれる人達を増やすことによって、トータルで見たらすごく廃棄量が減りました。このように、川崎さんの思いが社会課題解決をしていったという良い事例だと私たちも思っています、こういった事例を万博でも見せていきたいなと思っています。知財のチカラということで、どういったチカラがここにはあったのだろうということ、鋭意検討しているところなのですが、この場合だと、特許権を取得していたことが協業先への技術提供を円滑に促進することにつながって、アライアンス拡大のためのコミュニケーションツールとして機能したと私たちは位置付けております。もちろん特許を取らずにオープンにして技術使ってもらうこともできたのかもしれないのですが、特許を取っていることによって、きちんとした技術だと、先進的な技術だということをもみんなに認識してもらうことで、円滑に進められたんじゃないかなと思っています。このような感じで知財のチカラをみなさんに示していけたらいいかなと思っています。私からの説明は以上になります。

この後、加島先生に自己紹介と、携わられている I-OPEN プロジェクトの中で、知財のチカラを示す良い事例をご紹介いただきたいと思います。

では加島先生、よろしく願いいたします。

加島: では改めまして、私 I-OPEN プロジェクト有識者委員 日本橋知的財産総合事務所の代表弁理士の加島より、I-OPEN プロジェクトについて 10 分程度でお話しさせていただければと思います。

I-OPEN とは、特許庁の方で数年前にデザイン経営宣言があったと思いますが、その中の一環として、I-OPEN プロジェクトをスタートいたしました。特許庁の中の有志でチームを組み、こちらのプロジェクトを始めまして、初年度の専門家としてメンバーと、2024 年度には有識者委員を務めさせていただいております。

そもそも I-OPEN とは何か、とよく聞かれるのですが、I-OPEN というのは、社会課題と知的財産を掛け合わせ、誰かの助けになりたい、社会をより良くしていきたいという個人または組織、企業の想いを支援するプロジェクトでございます。もともと知的財産といいますと、今までは独占排他権というところで、いかにその知財を自社が使えるようにする、他社を使わせないようにする、それによってビジネスを促進していくということが従来の知的財産権と言われていたところですが、この I-OPEN は、その独占排他権というような従来の知財のアプローチではなく、想いを可視化することによって共感を生んで、競争につなげまして、課題解決を促進するというツールとして使うところでございます。やはり昨今、世界的にも、企業の利益追潤というより、社会課題を解決していくことの重大性が高まっているところがございますが、まさにこの I-OPEN は、知財を活用して社会課題を解決していくというものになります。

I-OPEN プロジェクトの中で I-OPENER という、社会課題を解決したい熱い想を持った個人または組織の方がいらっしゃいまして、毎年、I-OPEN プロジェクトに参画していただいているのですが、この I-OPENER の方にとっての知財は、独占というより競争というところで、他の会社、他の組織、他の個人と結びつくことによって、一緒に社会課題を解決していきましようというためのツールとして知財を活用していくところでございます。

また、I-OPENER をサポートしていく人たちがおります。こちら2種類おりまして、まず、知財の専門家です。私も初年度は知財の専門家としてサポートさせていただきましたが、想いを起点とした知財の活用の検討というところなどを行っております。また、I-OPEN の特徴的なところとしまして、この知財の専門家以外にも、社会課題解決・事業戦略・ブランドなどの専門家もいらっしゃいます。2人、あるいは3人以上の専門家がチームとなって I-OPENER をサポートしています。

伴走支援プログラムですが、まずその I-OPENER の想いを整理し、ありたい姿を描きまして、そこか

らアイデアを具現化していきます。そしてアイデアを実践することによって、これからの価値を考え、最後、社会価値の共創として、まさに今ある社会課題を解決するための想いをつないでいくというこの3つのステップから成り立っています。伴走支援プログラムは、毎年 I-OPEN プロジェクトのほうで手がけさせていただいております。

毎年、I-OPEN フォーラムを開いておりますが、2023年度の I-OPEN プロジェクト 2023 フォーラムから1つ事例を紹介させていただきます。こちら I-OPENER が株式会社ミヤモリの社長でいらっしゃいます宮森様と、知財の専門家として金子様、デザインの専門家として田中様の支援により、ReForme というプロジェクトを推進しております。ReForme がどのようなものかといいますと、繊維資源循環と衣類服飾雑貨の循環というところで、宮森さんが50年以上続く衣類の縫製会社で、スポーツグッズなどの縫製も行っているところですが、その過程において、この縫製現場での裁断片が年間 20 トン生まれるとのことでした。これが今まで破棄され、無駄に使われていたところ、この裁断片を再活用し、繊維炭にしまして、繊維炭による鉛筆を作りました。まさに服から鉛筆を生まれる、ということで、服を作るときの裁断片から鉛筆を生むというプロジェクトを 2023 年に行いました。もう一つ、こちらの会社さんで、リペアという、従来の着なくなった衣類を再活用するというもので、有名ブランドからのこのリペアの相談が増えているところ、最終的にはこの地域を ReForme し、地球温暖化をストップして持続可能な 100 年企業へ結びつけたい、という熱い想いを受けまして、I-OPEN プロジェクトで支援させていただいたところでございます。

ReForme のサーキュラデザインですが、生産、メンテナンス、FIBER CHARCOAL という繊維炭の二次産物という、3つの柱から成り立っています。生産はリペアブルシームの設計開発を行います。メンテナンスは、非常に大事になってくるところですが、先ほど申し上げましたリペアや、リメイク、リユース、カスタムという様々な技術を使い、その再利用を図っております。また、先ほど紹介しました服の

鉛筆というところで、繊維片から繊維炭を生み出し、そこを鉛筆や服の顔料、エネルギーなどで活用していくところがございます。実際、ReFormeの実店舗もオープンしております。三井アウトレットパークの北陸に、2024年にオープンしまして、実店舗の中では他店舗で購入した衣類品の直しやリペア、また、持ち込みにも対応しております。こちらの取り組みは社会的にも注目を浴びまして、Yahoo!ニュースに掲載されたり、新聞に載ったり、また、ReFormeの店舗掲載もございます。

ReFormeから生み出される知財ですが、先ほど申し上げた服の鉛筆は、自社出願で商標権を取得しています。また、繊維炭のFIBER CHARCOALも出願済みです。このような形で知財、商標がメインになりますが、商標以外にもこの繊維炭の二次製品開発で特許の申請も計画しているところがございます。やはり、このようなReForme再活用という、知財にも密接に関わってくるところでございまして、こちらのI-OPENプロジェクトの中でも知財の取得活用というところも積極的に支援させていただいております。

このような形で、このReFormeというプロジェクト、アパレル産業の変革を促進し、株式会社ミヤモリはこの58年の歴史を尊重しながら、持続可能な100年企業を目指すというところで、これからの時代、社会の持続可能性が非常に問われてくると思いますが、このあたり、特許庁I-OPENプロジェクトでも推進しているというところです。

あと2分ほどこのI-OPENプロジェクトの取り組みをいくつか紹介させていただければと思います。

I-OPENの中で、I-OPENコミュニティがありまして、このコミュニティは、先ほどのI-OPENERと専門家、社会課題解決を目指すコミュニティがつながり共感し学び合う場でして、招待制のオンラインコミュニティであったり、I-OPENERと知財専門家の交流会があったりというところです。また、こちら、地方自治体や地方の組織といった外部コミュニティとも連携して、このI-OPENの想いを広げる活動を進めております。先ほど紹介しました招待制のオンラインコミュニティはSLACKで運用していま

す。また、リアルの場合として、大手町のMIRAI LAB PALETTEというところで、こちらの場所を週に何日か使えるようにしておりまして、ここで多くのI-OPENERと専門家の間で勉強会を行ったり、交流会を行ったりしております。他にも様々な活動交流イベントを行っておりますので、ぜひこのI-OPENプロジェクトをご注目いただければと思います。こちら、先ほどご紹介がありました大阪万博でも、I-OPENのいくつかのI-OPENERのプロジェクトを紹介させていただければと思いますので、大阪万博に足を運ばれた際には、ぜひこちらのI-OPENプロジェクトについてもご覧いただければと思います。

では最後に、I-OPENプロジェクト、こちらは特許庁内の部署や職種を超えて公募した「デザイン経営プロジェクトチーム」により運営されております。MISSIONということで、「想いを知的財産のエンジンに、」知は一人ひとりの創造力のために、そして最後に「社会変革のための知的財産」というところで、新たな知財のあり方についての取り組みを行っておりますので、ぜひご支援いただければと思います。ご清聴いただきましてありがとうございます。

富士:ありがとうございます。後ほど、加島先生に知財のチカラでどんなものがあるかをお聞きしたいと思います。

次に、阪崎さん、関わられているWIPO GREENについて、良い事例などをご紹介いただければと思います。よろしくお願ひします。

阪崎:ありがとうございます。WIPO日本事務所で参事官をしております阪崎と申します。WIPO日本事務所では、WIPO GREENのプロモーション担当をしております。本日は微力ながらWIPO GREENの魅力を皆様にお届けしたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、WIPO GREENのことを存じない方もいらっしゃるかと思い、こちらを説明させていただきつつ、事例を3つご用意しております。

WIPO GREENとは、WIPOが運営する環境技術

の技術移転を促すためのグローバルプラットフォームでございます。環境技術の提供者のシーズと、環境技術を必要とするニーズを引き合わせる場を提供しています。こちらの設立には、日本知的財産協会 JIPA 様が深く関与しています。どの組織の方も無料で参加が可能です。世界中から集められたシーズ、ニーズの情報を収録したデータベースをはじめとしまして、マッチメイキングイベント、アクセラレーションプロジェクト、専門家データベースも有しております。専門家はニーズとシーズをつなぎ合わせる役目を担っていただいています。実際のライセンスなどの契約の交渉は、WIPO や政府が関与しませんので、自由に契約が行えるという取り組みとなっております。

続きまして、データベースを少しご説明いたします。こちらはパテントスコープから抽出した技術も登録されていますが、13.6 万件以上の環境技術が収録されています。そのうち、ユーザー様が積極的に登録なさったのは 5,100 件程度でございます。そして現在、500 のニーズが登録されておまして、日々増えております。さらに、300 人の専門家が登録されています。また、Google Translate で日本語での閲覧が可能となっております。ただし、検索の時は英語の名称を用いていただくこととなります。また、ユーザーガイド日本語版もございます。そして、ニーズを積極的に登録された方と、技術シーズを登録された方は直接コンタクトを取ることが可能です。パテントスコープからの抽出データにつきましては、データベース上でのコンタクトはできないことになっていきますことをご了承ください。今現在、日本の企業様からの環境技術の登録はこちらのようになっております。

マッチングを進めるプロジェクトとしまして、2015 年から行っているのですが、ジャパンファンドのお力をお借りしまして、2019 年のラテンアメリカから一層加速しております。2019 年以降の件数を申し上げますと、NDA やライセンスなどの契約に至ったマッチメイキングは 25 件、さらに実装に至ったマッチングは 9 件と、合計 34 件ございまして、増加しております。2018 年までのマッチングのイベン

トは、現地にてニーズ調査も行っていたのですが、比較的シーズドリブンでのマッチングイベントでした。しかし、2019 年からは、後ほど事例を用いて説明をいたしますが、例えば、農家へ実際にヒアリングを行うニーズドリブンの現地コンサルタントを交えた促進プロジェクトへと変化しております。そして、マッチング件数や実装件数も多くなっています。2024 年からはインドでもアクセラレーションプロジェクトが始まっていますし、今後地域が拡大されると予想しております。

世界から 157 のパートナー様が参加しておられます。WIPO GREEN パートナー様というそういう取り組みもございまして、日本の WIPO GREEN パートナーは 52 機関、団体様で世界一となっております。特許庁をはじめとする政府機関、企業様、知財関係の団体様、大学様、研究所様、特許事務所様もいらっしゃいます。

それでは事例に入らせていただきます。こちらはオープンイノベーションにおける WIPO GREEN の活用事例になっています。東洋大学の学生さん達と資生堂様とのライセンス契約が締結されたオープンイノベーションの事例になります。この学生プロジェクトでは、大学の講義で得た学びや経験をもとに、環境について考える活動を行っていたそうです。身近な物事から始めてみることを思いついて、毎日使用している化粧品に着目し、環境問題へのアプローチをプラスして新しい価値を与えることを考えて探索されたそうです。資生堂様の WIPO GREEN に登録されている、低エネルギーの乳化製造方法にたどり着いたとのこと。地元の株式会社シーエスラボ様の OEM 製造のご協力もありまして、企画開発が加速しました。パッケージも環境に優しい素材を使っているそうです。大学周辺の地域である群馬県館林市の名産物ポイセンベリーという植物の実があるのですが、その抽出エキスをこの化粧品に配合することで、地域活性にも貢献した製品となりました。

2 つ目の事例です。日本とインドの間の国境を越えた提携の事例を紹介させていただきます。WIPO GREEN パートナー様の 1 機関でございます、株式会社 JBEC 様は、バイオマスから水素を生成する技

術を有しています。モディ政権が水素に力を入れておりまして、インド工業連盟とジェットロニューデリーが共催で2023年に開催したWIPO GREENのイベントがございます。これは、当時インド企業にWIPO GREENの存在を認識させて、WIPO GREENへの登録を促す目的で開催されたものです。このイベントを通じて、インド企業とNDAなどの契約に至るマッチメイキングが実現いたしました。

3つ目は、チリと米国、チリとドイツの事例になります。チリのチェリー農園は、気候変動による異常気象や水不足の影響を受けて、経済的・環境的な課題に直面しておりました。日本国特許庁から拠出しているFIT/日本知的財産グローバルファンドが資金提供をして、チリのチリ産業財産庁と共同で実施した、WIPO GREENのラテンアメリカアクセラレーションプロジェクトの1つとして、民間コンサルティング会社であるIALE Tecnologiaの現地コンサルタントチームが、農家や果物輸出企業と、米国のTeslaの子会社であるTesla Energy様を結びつけました。提案されたソリューション自体は、電動灌漑ポンプを太陽光発電ポンプに置き換えるという、効果的ですが実はシンプルなものでした。この成功の裏には、民間コンサルティング会社が、チリ産業財産庁とWIPO GREENとの共同で、チリの国立農業基金に資金提供を申請し、かつ、Tesla Energyに直接リースモデルの活用を提案しました。それにより持続可能な資金調達メカニズムを構築したことが、成功の裏にあります。

もう一方で、チリ南部のオルソノで、WIPO GREENは風に抵抗性のある農業用被覆システムを専門とするドイツ企業のVOEN様のパートナーシップを促進しました。VOEN様はチリの拠点がございまして、それを活用して気候関連の障害から果物の品質を守るためにキャノピー技術、覆いの技術を作って販売しました。この技術によって、果樹の輸出に重点を置いた果樹農業の振興が可能となりました。

まとめです。行動することが、組織の、そして地球の未来を変えると考えております。WIPO GREENのポイントは、先ほどの内容を再掲したも

のになります。例えばアクセラレーションプロジェクトの対象シーズとなるためには、まずはWIPO GREENに技術を登録することが必要となります。パートナー様のメリットは、WIPO GREENのパートナーであることのロゴを使用できます。また、昨今のグリーンテクノロジーに対する基金を得るためのPRにご利用いただくことで、資金調達の機会が得られる可能性がございます。そして、こちらの右下の写真は、2023年6月に、日本のパートナー様向けの第1回ネットワーキングイベントを開催した時の写真なのですが、パートナー様同士でコミュニケーションを図る機会を提供させていただきました。今年度、第2回ネットワーキングイベントを来月の3月に予定しております。WIPO GREENを利用して、環境についての社会課題に対する想いを形にしてみませんか。ご清聴ありがとうございました。

富士: 阪崎さん、ありがとうございます。

では、本日のテーマでもある「知財のチカラ」をディスカッションしていきたいと思います。どちらも素晴らしい事例を挙げていただきましたけれども、まず加島先生、株式会社ミヤモリさんの事例を通して、知財のチカラをズバリ言うと、どんなものになりますか。

加島: そうですね、知財のチカラ、私個人的には接着剤みたいなものと考えております。特に、今回のI-OPENプロジェクトを通じまして、個人と個人をつながり、あるいは個人と組織をつながり、組織と組織、企業と企業をつながり、様々なつながりがあると思います。やはり個人が何を持っているか、IPであったりと、企業の持つIP同士を結びつける、これがまさにオープンイノベーションにつながるといって、その為にもこの知財というものが接着剤として有機的に活用することによって、様々な化学反応を起こして、最終的な社会課題解決につながるというところを考えております。

富士: ありがとうございます。では阪崎さん、いかがでしょうか。

阪崎:ありがとうございます。私は一言で、技術と持続可能な未来をつなぐ手段であると考えています。

WIPO GREEN は世界中の知的資産の宝庫でございます。日本の環境技術が知財化されて事業継続性の信頼を獲得して、そして途上国のニーズと出会って、お互いの連携につながり、地球規模の環境課題の解決に導かれると考えております。

富士:はい、ありがとうございます。どちらも、相手と相手は違うのですが、つながるとか接着剤とか、そのようなところで知財のチカラがすごく役立ってくるんだと強く感じました。

さて、今日私たちがパネルディスカッションするということで、特別ゲストが来て来ております。ミヤクミヤク様、どうぞ。

ミヤクミヤク様、皆さんご存知でしょうか？大阪関西万博のキャラクターです。赤いところが細胞で青いところが清い水というミヤクミヤク様なのですが、実は色々な形に変えることができ、今は人間の形を真似してきて来ております。では、ミヤクミヤク様が今ディスカッションを聞いていて、何か質問があるということですので、質問をお受けしたいと思っております。

ミヤクミヤク:特許庁主催の万博イベントで、展示やステージ以外に何かお勧めはありますか？

富士:ありがとうございます。先ほどステージイベントということで、コンテストやワークショップをご紹介させていただきましたが、ひとつ今予定しているのは、ピクシーダストテクノロジーズ株式会社さんの SOUND HUG という、丸い球体デバイスで、音の高さや大きさによって色が変わったり、振動が変わったりというデバイスがあるのですが、聴覚が不自由な方でも音楽を楽しめるというものになります。このモノを使って、感じる音楽会のようなものを万博でもやってみたいと思っておりますので、ぜひミヤクミヤク様もいらっしゃっていただければと思います。

ではミヤクミヤク様、最後に一言、みなさんに向

けてメッセージなどいかがでしょう。

ミヤクミヤク:前売券を発売中なので、ぜひ買ってください！

富士:ありがとうございます。ぜひご検討いただければと思います。

では、お二人もありがとうございました。

特許庁万博企画について

令和7年2月21日
特許庁総務部総務課
万博チーム 富士春奈



万博出展 ~テーマウィーク~

テーマウィーク（世界との対話・交流の場）

- 約1週間ごとに8つの異なるテーマを設定し、期間中は同じテーマを持つ企画を集め、来場者に地球規模の課題解決を考えるきっかけを与える取組。 ※ テーマウィークとして実施されたのは、ドバイ万博が初。
- 各ウィークの企画は、博覧会協会、政府、自治体等によって実施される。

分類	テーマ(ウィーク名)
いのちを救う 人と地球上の生命を脅かす課題	地球の未来と生物多様性(9/17-9/28)
	健康とウェルビーイング(6/20-7/1)
いのちに力を与える 誰もが幸福で豊かな生活を送るための課題	平和と人権(8/1-8/12)
	食と暮らしの未来(6/5-6/16)
いのちをつなぐ 社会を豊かにするための課題	学びと遊び(7/17-7/28)
	未来への文化共創 (4/25-5/6)
いのち輝く未来社会のデザイン まとも(費経透)	未来のコミュニティとモビリティ (5/15-5/26)
	SDGs+Beyond いのち輝く未来社会(10/2-10/12)

万博出展 ～ 知的財産の活用による社会課題の実現～

- 社会価値の共創などの新しい知財の活用事例 (I-OPENプロジェクト等) や社会課題解決に貢献する新技術を実演・展示予定
 - **2025年10月2日～10日** (EXPOメッセ「WASSE」)
 - 主催：特許庁 共催：日本弁理士会
 - 出展：特許庁、日本弁理士会、近畿経済産業局、INPIT
- 世界知的所有権機関 (WIPO) 等と連携し、社会課題解決に向けた知財活用の促進等に関する国際フォーラム等を開催予定
 - **2025年10月4日**、テーマウィークスタジオ (オンライン配信有)

世界的な社会課題を解決し、SDGsを達成するためのツールとして、
知財が有益であることを世界に発信する。



提供：2025年日本国際博覧会協会

2

万博出展 ～ 国際フォーラム～

- **2025年10月4日 (土曜日)**、特許庁は、世界知的所有権機関 (WIPO) や各国の知財庁等と連携し、SDGsに向けた知財活用の促進等に関する国際フォーラムを開催。
場所：万博会場・テーマウィークスタジオ (オンライン配信有)

第1部 WIPO GREEN ラウンドテーブル

- WIPO GREEN等を通じて社会課題解決のため環境技術移転を行った成功例の紹介及びマッチングの課題に対応した解決策、政府/産業界の役割、グリーン分野の知財庁施策等を議論するラウンドテーブルを実施予定。

第2部 EXPO2025 JPO-WIPO AWARD 授賞式

- WIPOと連携したアワードの表彰式を開催予定 (環境・気候変動等の分野においてより良い未来社会をデザインする知財活用企業が対象) 。

第3部 Women & Youth ラウンドテーブル

- 知財エコシステムの裾野を広げるため、女性や若者が発明・イノベーションに関わることの意義等を発信するラウンドテーブルを実施予定。

3

万博出展 ~ EXPOメッセでの展示 ~

- ▶ イベントタイトル: **「明日を変える知財のチカラ ~ 想いを届ける、世界をよくする ~」**
- ▶ 知財は、**「世の中を良くしたいという想いのある人」が「社会課題を解決するために使えるツール」としても使えるものである**ことを発信
- ▶ 特に、**若年層の方に向けて、知財の世界に興味を持っていただくための、社会課題解決に向けて知財を活用しているフロントランナーを紹介する展示や、社会課題を解決する特許技術を使った製品の体験、ステージイベント**等を企画



特許庁ウェブサイト内
特設サイト

<https://www.jpo.go.jp/news/expo2025>

4

万博出展 ~ EXPOメッセでの展示 ~

- ▶ 展示企業の一例: Synflux株式会社は、**衣服を作る際どうしても出てしまう大量の布の廃棄物を削減すべく、型紙を自動生成するシステムを開発し、特許権・商標権を取得。知財を活用して、想いを共にする多くの企業と連携している。**
- ▶ ステージイベントの一例: **知財ビジネスアイデア学生コンテストや、多様性がイノベーションを創る! 未来を拓く理系キャリア探求ワークショップ等を開催し、社会課題解決や知財分野のDE & Iを推進。**

“知財のチカラ”を実感しよう



特許技術を体験しよう



ステージイベントに参加しよう



EXPOメッセ内ステージイベントの例

10月4日(土)

近畿経済産業局

知財ビジネスアイデア学生コンテスト
(コンテスト本選(最終審査会))

10月5日(日)

INPIT

(工業所有権情報・研修館) 多様性がイノベーションを創る!

未来を拓く理系キャリア探求ワークショップ

5

万博出展 ~ EXPOメッセでの展示 ~

> 展示例 (Synflux)



一般的な
パターンの取り方



シンフラックスの
パターンの取り方

©Synflux

捨てない社会へ

ミッションを同じくするアパレル企業とのコラボレーションを通して、捨てないファッション産業を目指す。

廃棄物を3分の1に

衣服を作るために型紙に沿って布を裁断すると、大量の「廃棄」が発生する。

Synfluxは、一枚の布を無駄なく使う型紙を生成するシステム

「Algorithmic Couture」を開発し、「廃棄」を3分の1まで減らすことに成功。この技術で特許権を取得。

特許を独占しない

自社だけの取組で終わらせない。技術を共有し、コラボレーターがシステムを活用できるように、データの権利をライセンス(使用許諾)として展開。

知財のチカラ

特許権を取得していたことが協業先への技術提供を円滑に促進することに繋がり、アライアンス拡大のためのコミュニケーションツールとして機能した。

6

ありがとうございました



特許庁

グローバル知財戦略フォーラム2025

「知財のチカラ」の活かし方 ～万博に向けて～

I-OPEN プロジェクト 有識者委員
日本橋知的財産総合事務所 代表弁理士
加島 広基

1

I-OPENとは

 <p>I-OPENの「I」は知的財産 (Intellectual Property) の「I」 I-OPENの「O」はイノベーション (Innovation) の「I」 I-OPENの「N」は一人ひとりが創造の担い手である私たち自身 ① の「I」</p>	<h3>社会課題 × 知的財産</h3> <p>誰かの助けになりたい、社会をより良くしたい そんな想いと創造力から生まれる知的財産をいかして 未来を切りひらく人々を支援するプロジェクト</p>
---	--

「想い」が起点となる社会課題解決を進めていくためには、多様なステークホルダーとの共創が求められます。

I-OPENでは、事業の競争力強化のための独占、利益最大化を目的とした従来の知的財産の活用のアプローチではなく
想いを可視化することで共感を生み、共創に繋げ、課題解決を促進するツールとして知的財産を活用することを支援します。

想いの可視化 → 対話と共感 → 社会課題解決の加速

2

I-OPENER とは

「誰かの助けになりたい、社会をより良くしたい、そんな想いと創造力から生まれる知的財産をいかして、未来を切りひらく人」
 「社会課題を解決する事業に取り組み、知的財産権を有効活用することによって、課題解決をさらに推進しようとする人」

I-OPENERにとっての知財は「独占 < 共創」



知財はアイデアを広めるための装置
 吉田マカシ / まほうのだがしや Charol堂

知的財産権は、企業が権利を守るためにあるもので、自分と関係ないものと思っていました。でも、I-OPENを通じて、知的財産権は、お金を稼ぐために取るものというよりは、自分たちが思いついたCharol堂の仕組みを正しく広めるための装置と広く見え、活用するようになりました。



知財は想いに共感する仲間を集める
 川崎和世 / Syntlux (株) 代表取締役社長

環境問題は一人や一社では解決できません。このため、ファッションの高単価を削減できるシステムの発想も、想いに共感する多くの企業と共有することで、環境負荷の低いファッション作りの仕組みの革新にチャレンジしています。



ケアの価値を知財が見える化した
 大平智子 / (株) RingsCare 代表取締役

「終まで美しく生き切る社会」の実現のため、看護と美容を融合した新しいケアサービスを行っています。目に見えない事業の価値を「リングケア」という価値に落とし込み、多くの人に、自身の大切な想いを共有できるようになりました。

サポーターとは

「I-OPENERの課題を伴走支援によって解決に導く、知的財産活用や社会課題解決、事業推進の視点で伴走する専門家」

特許や商標登録は、私の場合
 どんなメリットがあるのだろうか...

想いを自分の言葉でまとめたい
 想いをうまく伝えて仲間を巻き込みたいが...

I-OPENERが抱える課題



実現に向けた具体的なアクションがわからない
 どこから計画を立てたらいいのか...

どうしたらアイデアを
 もっと社会に広げているのだろうか...

知的財産の専門家

- ・想いを起点とした知財活用の検討
- ・出願等における支援等の知財支援全般
 (出願戦略、オープン・クローズ戦略、知財の検証、権利・技術面からのコアコンピタンス整理等)



社会課題解決・事業戦略・ブランド等の専門家

- ・ありたい姿を描き出すための支援
- ・ビジネスプラン/ビジネスモデルの検討
- ・社会課題解決のための事業内容への助言
- ・事業戦略・ブランド戦略等の構築支援

TELL FROM SUPPORTER

Change Vision 株式会社 代表取締役 藤原 美穂
 Change Vision 株式会社 代表取締役 藤原 美穂
 Change Vision 株式会社 代表取締役 藤原 美穂



TELL FROM SUPPORTER

Change Vision 株式会社 代表取締役 藤原 美穂
 Change Vision 株式会社 代表取締役 藤原 美穂
 Change Vision 株式会社 代表取締役 藤原 美穂



伴走支援プログラム：社会課題解決へのステップ

I-OPENERの課題や段階に応じたアクションを「社会課題解決のためのステップ」として公開。

それぞれのステップにおけるラーニングコンテンツも用意しています。

※各ステップの解説ファイルは各課題別動画にリンクしています。



5



ReForme

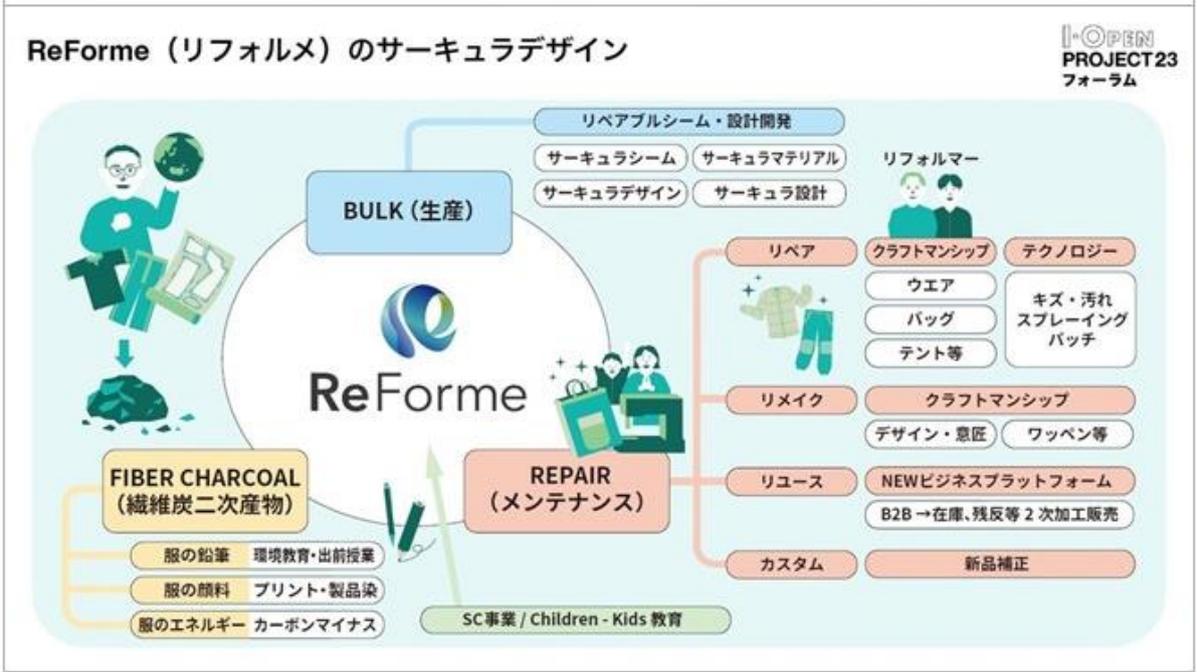
リフォルメ

繊維資源循環と衣類服飾雑貨の循環

I-OPENER 宮森 穂 株式会社ミヤモリ 代表取締役社長

サポーター 金子 彩子 弁理士法人 南青山国際特許事務所

サポーター 田中 美帆 株式会社cocoroé 代表取締役



ReForme（リフォルメ）実店舗オープン

I-OPEN
PROJECT23
フォーラム



三井アウトレットパーク
北陸小矢部内に
2024/12/17 オープン

他店舗で購入した
衣料品の
お直し・リペアや
持ち込みにも対応

Yahoo News (12/18)
織研新聞 (12/27)
ReForme店舗掲載

ReForme（リフォルメ）から生み出される知財

I-OPEN
PROJECT23
フォーラム

“服の鉛筆”
自社出願にて取得完了

“繊維炭 Fiber Charcoal”
自社出願にて申請済み

“服の”
自社出願にて申請済み

“Reforme”
自社出願にて申請済み

“すべての捨てるを
過去にする”
自主出願申請予定

Reformeシンボル
自社出願申請予定

繊維炭二次製品開発に
おける特許申請計画



ともに未来を紡ぎ、地球を守り続けるために

I-OPEN
PROJECT23
フォーラム



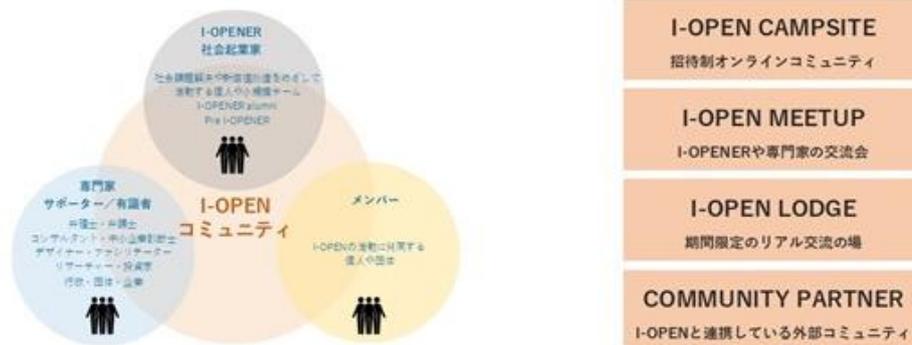
すべての捨てるを過去にする、リフォルメ

ReForme事業でアパレル産業の変革を促進し、株式会社ミヤモリは
58年の歴史を尊重しながら、人間の本質的価値を追求し、
持続可能な100年企業を目指します。

I-OPEN

I-OPENコミュニティとは

I-OPENと専門家、社会課題解決をめざすコミュニティがつながり、共感し、学び合う場として、I-OPENコミュニティを運営しています。
コミュニティには主に4つの活動があります。



I-OPENコミュニティとは

I-OPEN CAMPSITE

I-OPENERやサポーター、有識者が集うオンラインコミュニティです。
(招待性)



社会課題解決に取り組む教育機関・地域拠点と連携し
コンテンツの提供、研修実施、メンタリング実施を行っています。



I-OPEN MEETUP

I-OPEN LODGE

I-OPENERやサポーターが活動を共有しながら交流するイベントです。



パートナーコミュニティと連携し、期間限定で交流できる場を
設置しています。(例：令和5年度 大手町 MIRAI LAB PALETTE I-OPEN LODGE)



COMMUNITY PARTNER

13

終わりに

I-OPENプロジェクトは、特許庁内の部署や職種を超えて公募した「デザイン経営プロジェクトチーム」により運営されています。
誰かの助けになりたい、社会をより良くしたい、そんな想いと創造力から生まれる知的財産をいかして
未来を切りひらく人々を支援していきます。

MISSION

想いを知的財産のエンジンに Passion Driven

「こんな未来がいい」「こういう社会にしたい」小さくともありたい夢を想像し、具体化するために、知的財産は強い武器となります。そんな想いを持つ一人ひとりが事業をはじめ、つづける、ひろげることを支援する仕組みを構築します。

知は一人ひとりの創造力のために Democratization of IP

デジタルファブリケーションやオープンソースソフトウェアなどにより、個人やスタートアップ企業であっても、創造活動をより広く展開できる社会が訪来しています。そうした新たなイノベーションの担い手が知的財産を活用し、自らの創造性を最大化できる仕組みを構築します。

社会変革のための知的財産 IP for Social Impact

SDGsをはじめ日本そして世界が抱える課題に対し、国内外の企業から知的財産を活用したさまざまな取り組みが生まれてきています。知的財産を企業や経済の成長のみならず、持続的な社会づくりへと活かすための仕組みを構築します。



I-OPENプロジェクトは、2023年度グッドデザイン賞を受賞しています。

14

グローバル知財戦略フォーラム
パネルディスカッション1：「知財のチカラ」の活かし方 ～そして万博へ～

想いをカタチに ～WIPO GREENがつなぐ事業化の成功事例～

2025年02月21日

WIPO日本事務所
参事官 阪崎 裕美



目次

- WIPO GREENとは
- 事例1：オープンイノベーションにおける活用事例
- 事例2：国境を越えた連携事例（日本⇔インド）
- 事例3：国境を越えた連携事例（チリ⇔米国&ドイツ）
- Conclusion – 行動こそが未来を変える

WIPO GREENとは

WIPOが運営する、環境技術の技術移転を促すための
グローバルプラットフォーム

- ❑ 環境技術の提供者と、環境技術を必要とする者とを引き合わせる場を提供
- ❑ 日本の産業界（日本知的財産協会(JIPA)）が設立に深く関与
- ❑ どの企業・大学・機関・団体等でも無料で参加が可能
- ❑ 世界中から集められた環境技術及びニーズの情報を収録したデータベースをはじめとして、アクセラレーションプロジェクト、専門家データベース等も有する
- ❑ 知財部が主導権を取ってSDGsへの貢献（地球温暖化等の環境問題の解決）
- ❑ 実際のライセンス等の交渉は当事者同士に委ねられる

ウェブサイト：<https://www3.wipo.int/wipogreen/en/>

各種パンフレット：<https://www.wipo.int/publications/en/>

3

WIPO FOR OFFICIAL USE ONLY

WIPO

WIPO GREENデータベース

世界中から以下の情報が収録
され、検索可能：

- ❑ 13.6万件以上の環境技術
うち、ユーザーによる登録は5,100件程度
(Patent scopeから抽出した技術も登録)

- ❑ 約480のニーズ
- ❑ 約300人の専門家

※2025年2月時点

Machine translation

Google Translate
で日本語で
閲覧可能

WIPO GREEN データベース <https://www3.wipo.int/wipogreen-database/>

4

WIPO FOR OFFICIAL USE ONLY

WIPO GREENデータベース

環境技術やニーズの登録方法の詳細は、
ユーザーガイド（日本語版）をご覧ください

<https://www3.wipo.int/wipogreen/docs/ja/database-manual.pdf>

Become a WIPO GREEN user

As a registered user, you can

- Post technology solutions or needs in the database
- Maintain your profile
- Track your submissions
- Contact potential partners
- Use the experts database
- Benefit from discounts for certain services (e.g. arbitration and mediation)

[Become a user today](#)

How to upload technologies or needs

To upload a technology or information about a green technology need in the WIPO GREEN database, first log in to the WIPO GREEN portal using your WIPO account credentials. You will then have the option to submit a technology or need. If you are not yet a WIPO GREEN user, first create a WIPO account. Anyone can create a WIPO account, it is easy and free of charge.

Database Manual

- English
- **日本語**

Simple Upload Guide

- 中文
- English
- Español
- Français
- 日本語
- Русский
- 中文

WIPO GREENデータベース

関心のある技術やニーズについては、コンタクトを取ることが可能※

ENERGY > ENERGY TRANSMISSION AND DISTRIBUTION

Wireless power supply 18 - MAGNETIC RESONANCE POWER SUPPLY APPARATUS

A communication unit (16) receives information that allows the power supply efficiency of the highest-priority power receiver, which has the highest power supply priority from among a plurality of power receivers in a region in which power can be supplied, to be calculated when power is supplied to power receivers to be supplied with power, including the highest-priority power receiver, the information being received from the highest-priority power receiver. A power supply unit (18) is capable of supplying power to the plurality of power receivers. In a power supply control unit (14), the power supply efficiency of the highest-priority power receiver achieved when power is supplied to the power receivers to be supplied with power, including the highest-priority power receiver, is calculated from the information received by the communication unit; a determination is made on the basis of the calculated power supply efficiency of the highest-priority power receiver as to the power receivers to be supplied with power so that the estimated supplied power provided when power is supplied to the power receivers to be supplied with power, including the highest-priority power receiver, is within the power supply capacity of the power supply unit; and control is performed so that power is supplied to the determined power receivers to be supplied with power.

Keywords: null

TECHNOLOGY FEATURES

Technology categories Energy > Energy transmission and distribution

Benefits

it becomes possible to perform power supply that gives priority to power receiving devices with a high power supply priority level, and in addition, in the case of attempting to supply power in parallel to the plurality of power receiving devices, it becomes possible to utilize the power supply capacity of the power supply device effectively.

Owner Fujitsu Limited

Published Feb 26, 2020

Updated Feb 27, 2020

Technology

User uploads

9697

EMAIL OWNER NO WEBSITE

Fujitsu Limited

※PATENTSCOPEからの抽出データについては、データベース上でのコンタクト不可

WIPO GREENデータベース

日本の企業等からも、
多くの環境技術の情報が登録

機関名	技術登録数
富士通株式会社	392
株式会社豊田自動織機	79
キャノン株式会社	57
株式会社リコー	54
コニカミノルタ株式会社	37
東京大学	34
住友大阪セメント株式会社	32
株式会社富士通ゼネラル	26
株式会社カネカ	24
神戸スチール株式会社	19
三菱重工株式会社	14
boost technologies株式会社	14

※2025年2月現在。ユーザーによって登録された技術データ数を算出。

7

WIPO FOR OFFICIAL USE ONLY

WIPO

マッチングを進めるプロジェクト

対象とする地域や技術分野を設定して開催

- 技術提供者、技術希望者等が実際に集まってマッチングを進めるイベント
- 現地の環境技術へのニーズ調査

開催年	対象地域と技術
2015年	インドネシア、フィリピン、ベトナムを対象として、排水処理技術について
2016年	東アフリカを対象として、水と農業に必要な環境技術について
2017年	水分野の環境技術について
2018年	カンボジア、インドネシア、フィリピンを対象として、空気、農業、エネルギー、水関連の環境技術について
2019年-	ラテンアメリカを対象として、気候変動対応型スマート農業について
2021年-	インドネシアのパーム油廃棄物の処理と価値向上について
2022年-	中国の都市における炭素排出量削減について

<https://www3.wipo.int/wipogreen/en/projects/>

WIPO FOR OFFICIAL USE ONLY

WIPO

WIPO GREEN パートナー

□ 世界から157のパートナーが参加する中、日本のWIPO GREENパートナーは、52機関・団体で世界一

政府機関	特許庁、経済産業省九州経済産業局
企業	アサヒホールディングスグループ、味の素、アスタミューゼ、アドイン研究所、貝印、鹿島建設、キヤノン、Global Mobility Service、コニカミノルタ、GSアライアンス、資生堂、ジャパンプルーエナジー、住友大阪セメント、住友電気工業、ダイキン工業、ダイセル、帝人、デンカ、東洋アルミエコープロダクツ、Tokkyo.Ai、トヨタ自動車、豊田自動織機、日本軽金属、パナソニック、ピクシーダストテクノロジーズ、日立製作所、日之出産業、富士通、古河電気工業、本田技研工業、三菱電機、明電舎、LIXIL、リコー、レゾナック
団体	Team E-Kansai、日本知的財産協会、日本弁理士会
大学・研究所	大阪大学、九州大学、東海国立大学機構、東京科学大学、東京大学、東北大学、北海道大学、明治大学高分子科学研究所、山形大学、早稲田大学環境総合研究センター
その他	正林国際特許商標事務所、発明推進協会アジア太平洋工業所有権センター

※2025年2月時点 WIPO GREEN パートナー一覧は下記URLを参照

◦ <https://www3.wipo.int/wipogreen/en/network/partners.html>

WIPO FOR OFFICIAL USE ONLY

WIPO

事例1：オープンイノベーションにおける活用事例

- 資生堂は「WIPO GREEN」データベースに掲載している技術を、東洋大学のSDGs関連の学生プロジェクトにライセンス締結。OEM製造や商品企画のサポートが得られたことで、企画・開発が加速化。
- 大学周辺地域である群馬県館林市の名産物「ボイセンベリー」の抽出エキスを当該化粧品に配合することで地域活性化にも貢献。製造時のCO2排出量削減のみならず、外装材料も環境負荷低減に。



開発商品：ハンドセラム「BOISEN」
写真提供：東洋大学



卒業式での配布風景
写真提供：東洋大学

資生堂プレスリリース(2022年3月)

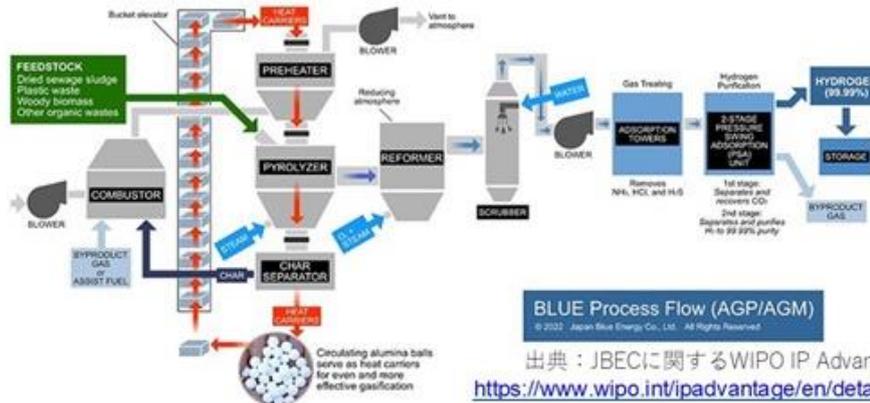
<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003355>

WIPO FOR OFFICIAL USE ONLY

WIPO

事例 2：国境を越えた連携事例（日本⇔インド）

□ WIPO GREENパートナーの1つであるJBECは、バイオマスから水素を生成する技術を有する。インド工業連盟主催のWIPO GREENイベントを通じ、インド企業とのマッチングが進展。



11

WIPO FOR OFFICIAL USE ONLY

WIPO

事例 3：国境を越えた連携事例（チリ⇔米国 & ドイツ）

チリのチェリー農園は、気候変動による異常気象や水不足の影響を受け、経済的・環境的な課題に直面。WIPO GREENは、農家と企業をつなげることで、持続可能な解決策の導入を支援。

1. マロアでのソリューション：太陽光発電を活用した灌漑 (2019年ラテンアメリカアクセラレーションプロジェクト)

果物輸出企業Agricola Tamboは、IALE Tecnologiaを通じてTesla Energyと提携し、従来の電動灌漑ポンプを太陽光発電ポンプへと移行。

2. オソルノでのソリューション：耐風性農業用被覆システム

強風や雹の影響について、WIPO GREENはドイツのVOEN社と農園をつなげ、耐風性の高い農業用被覆システムを導入。



チリ・マロアのAgricola Tamboチェリー園では、ここ数年、降雨量が少なくなっています。
(写真: IALE Tecnologia社提供)

3. 資金調達と持続可能な農業モデル

IALE Tecnologiaは、チリ産業財産庁 (INAPI) とWIPO GREEN共同で、マロアに提供予定の技術に関して、チリの国立農業基金に資金提供を申請、Tesla Energyに直接リースモデルの活用を提案し、持続可能な資金調達メカニズムを構築。

気候変動は世界共通の課題 → 他国の農業モデルにも応用可能

12

WIPO FOR OFFICIAL USE ONLY

WIPO

Conclusion – 行動こそが未来を変える

【WIPO GREENのポイント】

- 環境技術の提供者とそれを必要とする者との場を提供
- 環境技術、ニーズ、エキスパートの3つのデータベース
- 企業・大学・機関・団体等で誰でも無料で参加が可能
- ライセンス等の交渉は当事者同士、WIPOや政府は干渉せず

【WIPO GREENパートナーのメリット】

- グローバルなネットワークを活用できる
- 資金調達やビジネスマッチングの機会を得られる
- 知的財産の活用と技術移転を促進できる
- SDGsやCSRの推進に貢献できる
- 最新の環境技術や市場動向を学べる
- 企業のブランド価値や競争力を高められる

共に社会課題に対する想いを
カタチにしませんか。



13

WIPO GREEN/パートナー ネットワーキングイベント(2023年6月) WIPO
WIPO FOR OFFICIAL USE ONLY

Thank you for your attention.

© WIPO, 2021

 Attribution 3.0 IGO
(CC BY 3.0 IGO)

The CC license does not apply to non-WIPO content in this presentation.

Photo credits: WIPO

WIPO